

Z-73-A 簿記論〔第一問〕一解 答一

問1 各1点

(1)	①	こ	②	さ	③	こ
	④	さ	⑤	く	⑥	け
(2)	⑦	412,250 円		⑧	337,000 円	
	⑨	141,300 円		⑩	1,682,800 円	

問2 各1点

(1)	①	1,859,000 円		②	1,471,000 円	
	③	236,000 円		④	4,548,600 円	
	⑤	752,600 円		⑥	1,623,000 円	
	⑦	909,720 円				
(2)	⑧	し	⑨	き	⑩	せ
	⑪	し	⑫	さ	⑬	し
	⑭	す	⑮	さ		

Z-73-A 簿記論〔第二問〕一解 答一

(2)は2点、(4)は3点、それ以外は各1点 (⑩⑭の金額を入替え、かつ、⑫⑮の記号を入替えても正解)

(仕訳の金額の単位：円)

(1)	①	け	②	70,380,000		
	③	す	④	1,224,000		
	⑤	け	⑥	3,672,000		
	⑦	し	⑧	630,000	⑨	か
	⑩	す	⑪	420,000	⑫	し
	⑬	す	⑭	1,496,000	⑮	せ
(2)	73,222,385 円					
(3)	6,433,444 円					
(4)	7,881,000 円					
(5)	88,180,500 円					
(6)	182,103,800 円					
(7)	5,602,196 円					
(8)	2,675,745 円		(借方)			

Z-73-A 簿記論〔第三問〕一解 答一

(単位：円)

番号	金額	番号	金額
①	② 100,000	㉑	① 11,000
②	② 18,078,000	㉒	① 34,500,000
③	① 23,300,000	㉓	① 5,700,000
④	① 3,179,320	㉔	① 17,700,320
⑤	① 2,938,750	㉕	① 13,478,153
⑥	① 2,300,000	㉖	① 590,000
⑦	② 1,940,400	㉗	② 6,860,000
⑧	① 18,620,000	㉘	② 34,865,000
⑨	① 16,900,000	㉙	① 555,555
⑩	② 3,350,000	㉚	① 146,250
⑪	① 17,100,000	㉛	② 20,703,125
⑫	① 13,624,500	㉜	① 575,000
⑬	① 257,113,500	㉝	② 5,620,800
⑭	① 74,555,555	㉞	① 341,250
⑮	① 6,219,000	㉟	① 38,668,755
⑯	② 7,000,000	㊱	① 38,000,000
⑰	① 505,000	㊲	① 315,150,000
⑱	① 407,750	㊳	① 1,000,000
⑲	① 1,670,000	㊴	② 837,500
⑳	① 2,180,000	㊵	① 4,538,250

簿記論【総評】

〔はじめに〕

全体を通じた分量・難易度としては簿記論の標準レベルという印象である。個々の問題、あるいは第三問の決算整理の各項目については、その難易度にかかなりのバラつきがあったが、資料の見た目と難易度のギャップが少なく、取捨選択の判断は比較的容易であったものと思われる。

合格ラインも、簿記論としては例年並みの水準になると予想される。

〔第一問〕

問1は特殊仕訳帳を絡めた簿記一巡型の推定問題、問2は自社利用ソフトウェアについて問うものであった。問1については、直前期対策で扱っていた内容ということもあり、短時間でしっかり得点できたはずである。問2は、ソフトウェアを自社で開発し利用するという新しい出題パターンであったが、資料の流れに沿って比較的容易に解答できるものであった。いずれも高得点を期待したいところである。

予想ボーダーライン：18点～20点

〔第二問〕

外貨換算会計をテーマとして、為替予約（予定取引を含む）、外貨建発行社債などの処理を問うものであった。解答に必要な計算量が多く、留意事項などをしっかり確認しながら慎重に解き進める必要があり、総合的に非常に難度の高い問題であった。30分程度の制限時間では、社債と建物に関連した(2)～(4)を優先して解答し、あとは(1)の仕訳のうち勘定科目を中心としてある程度得点できていれば十分であろう。

予想ボーダーライン：8点～10点

〔第三問〕

一般的な商品売買業ではなく、製造業を営む企業に関する決算整理型の総合問題であった。内容的には、製造原価の集計部分は相当に簡略化されているものの、その他の決算整理事項の中には従来の出題ではあまり見慣れない修正事項などが散見され、資料の読み取りに手間取る場面も多かったのではないだろうか。小口現金、当座預金、商品A、原材料、固定資産、賞与引当金、退職給付引当金、租税公課といった比較的平易な部分を中心に、15～17カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン（〔第三問〕）：22点～24点

〔合格ライン〕

簿記論の予想合格ボーダーライン：50点～52点（LECの想定する配点基準に基づく）

配点基準が変われば合格ラインも上下するので、おおよその目安として合格ラインを見るようにしていただきたい。